

# 事務職員による輸出管理の可能性

—事務職員の業務を阻害する要因について考える—



安全保障貿易管理士(STC Legal Expert)  
電気通信大学学術国際部研究推進課 早川 知宏



## 自己紹介

- 東京大学の事務官として採用
- 旧文部省の学術国際局へ転任
- 省庁統合を経験し、文部科学省では研究開発局に在籍
- その後、大学に管理職で転出、入試や学生系も経験
- **J A X A 宇宙科学研究所（相模原）時代に安全保障輸出管理を学ぶ**
- 群馬大学、静岡大学等で研究支援や産学連携に関わり、研究リスクマネジメント体制構築に貢献
- 安全保障貿易管理士（法令）を認定
- 信州大学を最後に定年退職
- 現在は、電気通信大学で輸出管理や利益相反、研究インテグリティを担当

JAXAは大学と違い、事務職が中心となって法人経営や組織運営を行っている  
（研究者はプロジェクトや研究に専念できる体制）

一方で、**事務にはプロフェッショナルな役割**が課されていた  
担当者（と上司）には、職務に必要な知識の獲得（自己研鑽）が求められる  
知的財産、輸出管理も・・・（**手厚い人材育成**の方針のもと資格取得）  
安全保障輸出管理担当の上司として  
安全保障貿易情報センター（CISTEC）の**実務能力認定試験の受験料補**

**助**

テキスト支給  
各種有料セミナーへの参加



(参考)

事務職員は与えられた職務を遂行するためなら  
自らリテラシーを高める努力を怠らない



安全保障貿易情報センター (CISTEC)

実務能力認定試験もクラスがあり、ステップアップが可能

Associate 初級 合格率 60～70%

Advanced 中級 合格率 50%

準Legal Expert

Legal Expert 上級 合格率 10%

Expert (総合) ↓

Expertから安全保障貿易管理士を名乗れます



テキストも輸出管理業界唯一の参考書となっている



CISTECから各資格の  
テキストや問題集が出ています



## 自己紹介

- 東京大学の事務官として採用
- 旧文部省の学術国際局へ転任
- 省庁統合を経験し、文部科学省では研究開発局に在籍
- その後、大学に管理職で転出、入試や学生系も経験
- JAXA宇宙科学研究所（相模原）時代に安全保障輸出管理を学ぶ
- **群馬大学**、静岡大学等で研究支援や産学連携に関わり、研究リスクマネジメント体制構築に貢献
- 安全保障貿易管理士（法令）を認定
- 信州大学を最後に定年退職
- 現在は、電気通信大学で輸出管理や利益相反、研究インテグリティを担当

伊藤先生のもと、群馬大学の安全保障輸出管理体制を構築

平成28年に安全保障貿易管理規則を制定（JAXA時代に作成した総研大・宇宙科学専攻の規則がベース）  
規則のポイント

1. **委員会を置かない**審査体制（**事務による事務的審査体制**）  
教員に法令遵守の責任を負わせない、無駄な時間を取らせない、
2. 研究推進、国際交流への**牽制機能**（**総務担当理事を統括責任者**）  
アクセルとブレーキの分離実現・・・理想ではあったが、しかし・・・



その後も、様々な大学で秘密情報管理など、リスクマネジメントの規則を整備していく

1. 教育研究への配慮を文章化（研究者の教育研究の自由を守る）
2. 学生の立場の尊重を宣言（学生の教育研究を受ける立場を守る）



## 事務職員による輸出管理はどこまで可能なのか？（①能力の問題）

輸出管理における「事務職員」に対するステレオタイプのイメージ・・・

- 異動が頻繁で、知識の蓄積ができない
- セクショナリズムが強く、部署間で協力ができない

異なる大学組織を異動（転職）してみると、  
実は事務職員の能力は高いことを実感できる

事務職員は、**異動によって**

**短期間**で学内規則や関連法令を**理解する能力**を磨き  
マニュアルを作成し、実務能力を習得している



立場が違えば主張は  
受け入れられないもの

**セクショナリズム**も実は、

共通の目的を達成するため、**構成員の同質性を確保**するため

立場の違いを明確にして、**外部に抵抗**しているに過ぎない

事務職員は、異動することによって、違った部局の立場を学んでいる

そのため**異動するごと**に、相談する仲間が増えていく

仲間が増えると**連携が容易**になり、業務が円滑に進む可能性を持つ



## 何が事務職員にとって輸出管理を「困難なもの」と意識させているのか？ (②法制度の問題)

法令自体は勉強すれば理解できる（事務職員の得意とするところ）  
しかし、**企業を対象とした法体系**を大学の教育研究の現場に適用させることは難しい現実

- ・ 大学は、組織として研究成果を管理しているわけでない  
技術を理解しているのは教員しかいないので、該非判定を丸投げ  
教員自身にマトリックス表で該非判定させるのはかなり危険  
であり、現場を不安に落とし入れているのが現実です
- ・ 研究活動は試行錯誤の創造課程であり、最終形は存在しない  
製品化の意図もなく、完成型がないので該非判定が困難
- ・ グローバルな人材育成が「技術の提供」なのか  
教員側からの一方的な知識提供ではなく、双方性なのが教育  
教育は学生側のアイデア（学生からの技術提供）を引き出す（大学院）
- ・ 大学と教員の雇用関係の実態を理解していない  
雇用であっても統治せず（教員の活動を法人は把握・管理していない）  
法人間で契約（共同研究）しても、法人は技術自体関知していない
- ・ 特定類型該当者は、大学の教育研究システムから排除されていいのか？  
特定の教員や留学生への技術提供を排除（授業、研究会への参加拒否）すれば、  
大学の教育研究システムは崩壊する





## 事務職員の業務の障害になっているのは、**一部の教員**の存在（③ひとの問題）

事務職員は、彼らに**多大な労力を費やし、精神的なダメージを負っている**

輸出管理の進め方についていくうえで**障害となる教員**のタイプを勝手に分類すると・・・

**無関心型**・・・自分の教育研究以外に興味がない  
手続をしてくれない、質問しても返答なし、期限を守らない

**正論型**・・・自分の主張が常に正しいと思っている  
米国追従の安全保障は、世界平和に貢献しない・・・  
学問に国境はなく、国際交流こそが人類に幸福を・・・

**攻撃型**・・・**事務組織や管理側を**目の敵にして**攻撃してくるタイプ**  
知っていながら、遊んでいるようにも見えるし、  
こちらを試しているのかも・・・  
⇒結局、付き合っているこちら側が疲弊してしまう



国際交流を推進する教員と輸出管理担当者は、しばしば衝突する



大学という特殊環境において、「**ひとの問題**」を解決するためには、  
「**輸出管理の実施＝法令遵守**」の基本原則に帰対応するのがベスト



- ・法令の範囲内で、**やりたいことを認めてあげる**対応をすることにより、  
**担当者の心労の疲労を回避させることが重要**

「バックキャスト型安全保障貿易管理」  
最終的に**研究を遂行させることを出発点**として、**逆算的に**安全保障貿易**管理を適合**をさせることで、法と大学の使命のバランスを確保する管理手法（by早川）

## ●逆引き該非判定

最初に、ご自身の研究に関わる分野の「貨物等省令」（マトリックス表）を読み込み、  
**抵触しないスペック**を理解しながら、**その範囲で教育・研究を実施**してもらう  
研究活動で、範囲を超えるものは、技術の提供なく単独での研究をお願いする

## ●「公知」「公知化」特例の最大限の活用 ←政府のオープン化戦略も後押し

多くの大学で行っている「居住者」化を待つやり方では、結局「技術流出」は止められない

- ・研究成果は即時公開し、それに基づき、教育活動と次の研究に活用する
- ・論文発表以外に、機関リポジトリやプレプリントサーバー活用による未査読論文やデータ等の即時公表も有効
- ・留学生指導では、未公開情報は、いったんネット上でオープンにしてから、その公知情報により教育を実施
- ・留学生には、現時点で学んだことをすべて公開、発表させて帰国させる（出口管理）  
（大学が提供していない技術は、学生自身のアイデアであり、本人の技術です）



大学の**規模や姿勢**によって、輸出管理を行う事務の置かれている立場は様々です  
**法令遵守を原則**に、**バリエーション**（大学による商慣習の差）があってもかまわない

労力のいる需要者要件の確認



大学の規模が大きく、先端技術を扱っています。  
 十分な調査人員が措置されているので、深掘りして完璧に調べます。



兼務なので、可能な時間内で、調査可能な範囲を調べます。



担当がいないので、自己申告を尊重して処理します。



決して沼にハマることなかれ

(参考)

従事者 \ 適応力	法令理解 申請経験	研究内容の 技術理解力	教員との 人間関係	部署間 学内調整力	知識の継承 任期による断絶	人材確保	セットパターン								
企業人材	◎	○	△	×	×	×	○	○	○						
URA	○	◎	○	○	△	△		○		○	○	○			
専従事務職員	△	×	○	◎	○	×	○			○			○		
兼任事務職員	×	×	○	△	△	○								○	
非常勤・派遣職員／ 再雇用職員	△	×	×	×	×	○	○	○	○		○			○	
◎ - ○ - △ - × 適応が容易 ← → 適応が難しい							松		竹			梅			

属人的に個人の力量に頼らず、永続的に運営したいのならば、管理組織を形成※し、人材を教育しながら順繰りに回していくことが必要です。

**事務系管理職がしっかりグリップしなていかないと永続的な組織になりません！**

※くれぐれも理事や役職教員を形式的にトップにしないこと（経験則）





技術を究め、技術を創る

国立大学法人

豊橋技術科学大学



輸出管理DAY for ACADEMIA 2025

# 輸出管理業務の効率化に向けた取組み

## ～該非判定・人材育成の観点を交えて～



公式マスコットキャラクター  
「ギカじか」

パネラー  
研究推進課 専門職員  
高津直志



## 1. 豊橋技術科学大学の構成員（2025年5月現在）

### 役教職員数

豊橋技術科学大学公式HP  
大学の紹介等



役員 6名, 教育職員 195名, 一般職員 133名 ▶ **事務職員 112名**, 高度専門職 6名

### 学生数（外国人留学生を含む）

2,193名（学部 1,232名, 博士前期 861名, 博士後期 100名）▶ **高専卒業生 約80%**

### 外国人留学生数

35か国から **215名** ▶ **全学生に占める割合 約10%**

### 外国人研究者数

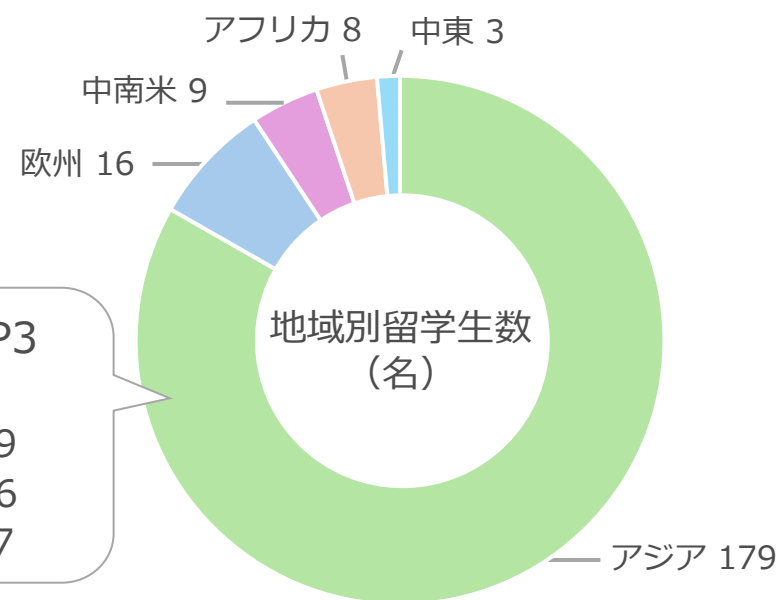
24名



#### 国別留学生数 TOP3

Top 3 Countries

1st	インドネシア	39
2nd	マレーシア	36
3rd	モンゴル	27





## 2. 輸出管理の現状

2024年度 申請件数

**385**件

(人, 技術, 貨物)

うち ▼

**該非判定件数** 約 **3** 割



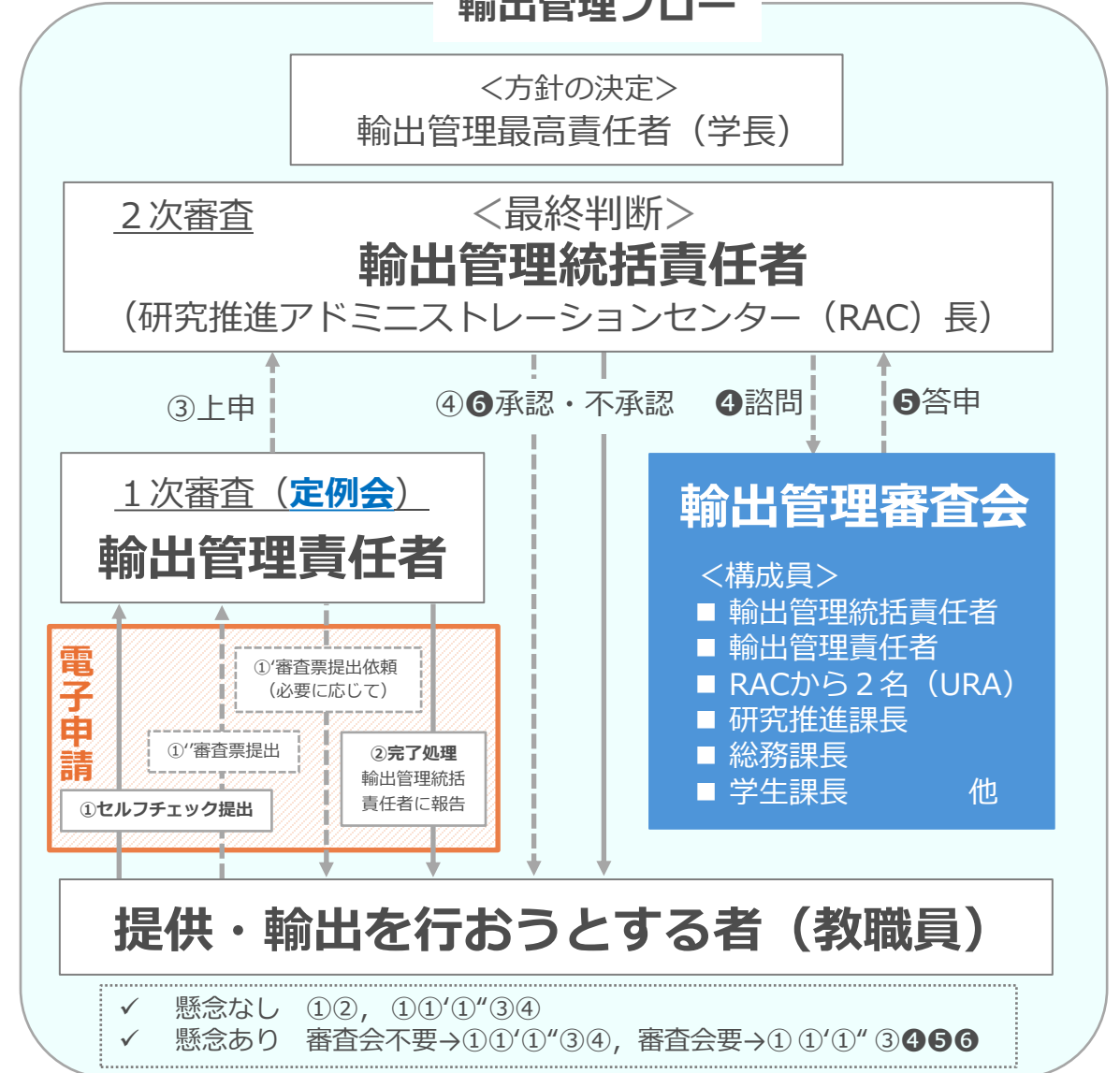
- ✓ 電子申請化 (2020.11~)
- ✓ 各種業務フロー等への組入れ

年々業務量が増加中



業務効率化が避けられない！

### 輸出管理フロー





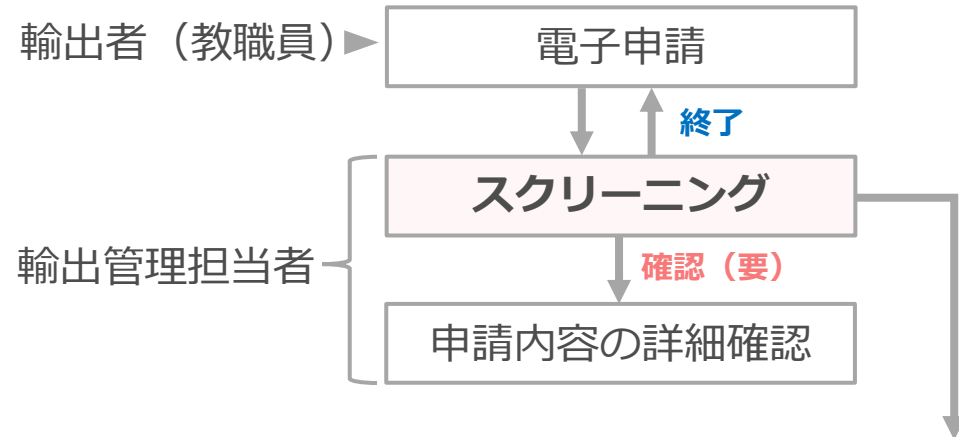
### 3. 管理体制

輸出管理担当者（産学官連携リスクマネジメント室員）▶ 兼 務		
所属	研究推進課	研究推進アドミニストレーションセンター（RAC）
職種	事務職員	URA
人数	2名	3名
主な業務内容		
日々	相談対応，申請内容の確認，電子申請システムの管理 申請・相談件数の取りまとめ，HP更新（随時）	申請内容の確認，相談対応，HP更新（随時） 誓約書の取得（Googleフォーム）
週1回	<b>定例会の開催</b> ▶ <b>✓ オブザーバー参加可能（事務職員）</b> （約1時間） ✓ 申請内容の確認，該非判定（ダブルチェック），取引審査，申請者へのヒアリング等.	
月1回	啓発メールの配信（対象：教職員）▶ 最新の法令，学内手続き，ヒヤリハット事例等を周知.	
年1回	・ <b>リスト規制貨物・技術の保有状況調査（対象：教員）</b> ・ <b>輸出管理に関する監査（対象：教員）</b>	} ✓ 既存の調査に合体させて実施（Googleフォーム） } ✓ 結果をもとに，必要に応じてヒアリング. } <b>✓ 現場確認・可視化，認識・意識の向上に有効！</b>
不定期開催	・ 輸出管理審査会（年に数回開催） ・ 技術流出防止及びサイバー攻撃対策に関する講演会（主催：愛知県警察本部，豊橋警察署）	



## 4. 該非判定（技術）

### 場面ごとにスクリーニング



#### （例）外部発表の場合（イメージ）

①公知の技術の提供か？	YES・NO
②技術を公知化するための提供か？	YES・NO
③不特定多数の者への提供か？	YES・NO
④外国又は非居住者・特定類型該当者への提供か？	YES・NO

対象外にできなかったもの  
約**30%** 該非判定

### 該非判定件数を最小化

#### 《 スクリーニングの結果 》

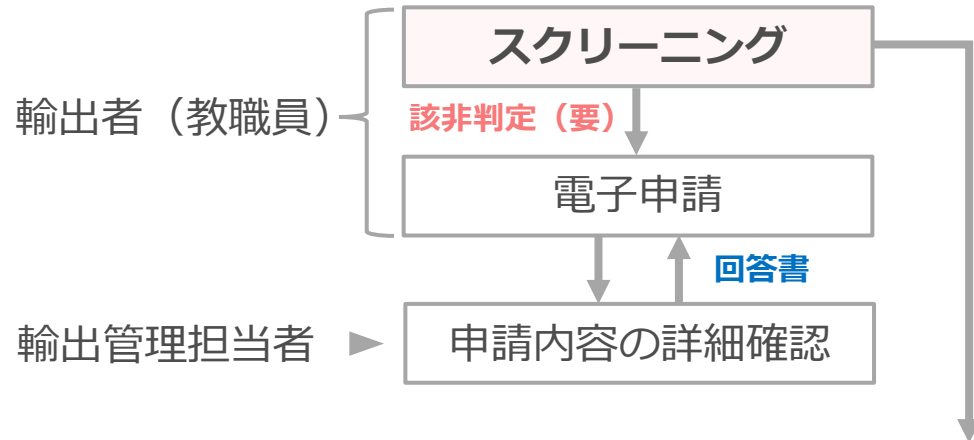
- 技術を提供する取引ではない  
(例) 現地調査, 現地視察, 情報収集 約**10%**
- 貨物の設計・製造・使用の技術等ではない  
(規制対象にならない技術)
- 公知・公知化  
(例) 国際会議, 国際学会 約**60%**
- 基礎科学分野の研究活動  
(該当することは稀, この要件のみで例外適用していない.)

約**70%** 該非判定不要



## 5. 該非判定（貨物）

### 輸出者が申請前にスクリーニング



- ✓ 全ての輸出貨物について安全保障輸出管理の対象としているが、下記の貨物に限り対象外としている。

事務書類（技術情報を含まない）、食品、木材 など

対象外にできなかったもの  
**該非判定**

### 事務局でチェック

- 該非判定なし
  - ✓ 輸出貨物事前確認票（紙, Googleフォーム）
- 該非判定あり
  - ✓ 輸出貨物事前確認票（紙, Googleフォーム）
  - ✓ 回答書（該非判定結果含む）

確認後

### 輸出者（教職員）

- ✓ 通関業者に法人番号13桁を告げるとともに、同番号を用いて輸出申告することを依頼。

大学として輸出申告状況の把握が容易になる

国税庁法人番号公表サイト



**（個人名（私物を除く）での輸出申告を禁止）**

- ✓ 通関業者から、輸出許可通知書入手する。

**事務局で保管**



## 6. 課題・取組状況（人材育成の観点）

＜業務の継続性＞が課題

＜事務職員＞の取組状況

専門性

外為法等の法令の解釈

### 知識の習得

- ✓ 外部研修の受講
  - ✓ 資格取得
  - ✓ e-Learning教材（無料）で学習
- 受講料等大学負担（予算次第）

時間

経験・ノウハウが必要

### 経験・ノウハウの蓄積

- ✓ マニュアルやガイドラインの作成
- ✓ ノウハウブックの作成（検討中）

長期化

代わり的人がい

### （案）二人一組でローテーション（中堅クラス）

例：A主任，B係長 → C主任，A係長（数年後）

経験者が増加，裾野が広がる。

### 主なデメリット

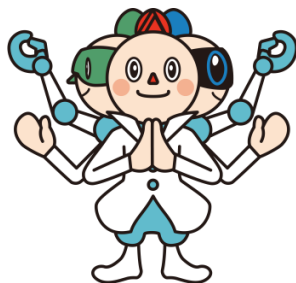
- 担当者不在時の業務停滞リスク
- スキルの偏り
- 長時間労働の誘発

属人化の傾向

業務の継続性の確保



# 該非判定に向けた教員との対話



公式マスコットキャラクター-NASURA

奈良先端科学技術大学院大学  
研究・イノベーション推進機構  
URA 中塚祐子



# はじめに

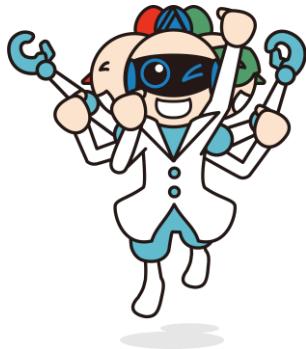
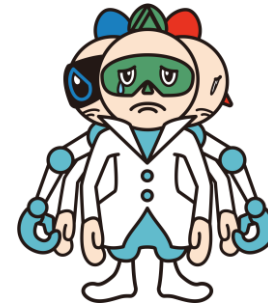
該非判定のためには  
教員の協力が不可欠

というのは皆様同意でしょう・・・



そこで問題は

どうやって話してくれる  
ようになるの？



まずは自分のスキルアップから！

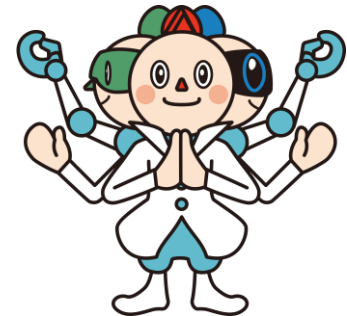
- ① どうやって勉強したかと、
- ② 印象に残ったやり取りをご紹介します！



# どうやって勉強したの？ 基本編

- まずは、CISTEC春期：輸出管理基礎コース  
コロナ禍のおかげでビデオが公開されていたので、3周する
- CISTECの技術提供管理に関する研修会、分野別研修会、  
実務演習コース＜該非判定＞などを受講
- 実務能力認定試験はAssociateとAdvancedを取得

奈良先端大では事務の人も認定試験を受けます。ローテーションで輸出管理が分かる人が少しずつ増えていきます。





# どうやって勉強したの？ 技術編

- 合体マトリックスって全部見るんですか？とたまに聞かれますが…私は全部読みました！
- CISTECの輸出管理品目ガイドは便利 →
- バイオサイエンス系は馴染みがないので、漫画から
- ウィキペディアもよく読む



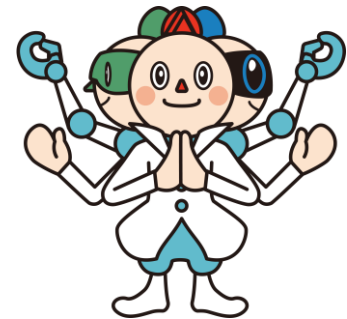


# どうやって勉強したの？ 学内編

- ラボガイドを読む（学生向けだから分かりやすい）
- 良くできる（教員とも対等な感じで話せる）  
事務の人は、何度もラボガイドを読んでいた
- 研究室のホームページもチェック



全ての分野が分かるわけではないので、  
都度勉強しています。プロの端くれとして、  
日々勉強することが、教員からの信頼に  
繋がると感じています。





# 事例① GPUはニューラルコンピュータ！？

情報科学系の先生が、GPUはニューラルコンピュータであるという主張を掲げて問い合わせをしてきた

- GPUの構造が「ニューロン（神経細胞又は神経突起）又はその集合体の作用を模擬するように設計又は設計変更された演算装置をいう。すなわち、以前のデータに基づいて多数の演算構成要素間の相互接続の重み付け及び数を調節できるハードウェアの能力によって、特徴付けられる演算装置を指す。」の2文目に当てはまる可能性があるとのこと
- 経産省への問い合わせを行い、「市場で販売されているようなGPU（Graphics Processing Unit）は多数のコアで並列計算を行っていますが、ニューロンの作用を模倣するように設計又は設計変更された演算装置とは言えない」という回答をいただき、違うという結論になった。
- ではニューラルコンピュータは、何を指すのか？  
生の細胞などを使って作る場合なのでは？



## 事例② 公知だったら良いのか？

化学系の先生から、サリンの合成方法が公知なのはどうなのかと質問がきた

現代化学 2016年11月号  
「【手記】当事者が初めて明かすサリン事件の一つの真相」  
中川智正



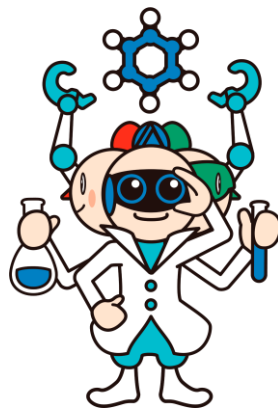
- 化学界に衝撃の走った記事  
サリンの合成経路が書かれている
- 大学の技術の重要な点が含まれていて、有機合成を勉強すれば4回生くらいで合成経路は思いつけるが、だからと言って有機合成を教えること自体を規制するのはナンセンス
- この話を知っていると化学系教員から、「こいつ分かっている」という扱いをしてもらえる



# 事例③ リスト規制です、作れたなら

繊維の研究をしている先生の謳い文句が「鋼鉄より強い」

- リスト規制該当になりそうで詳細をヒアリング
- まだできていなかった…
- ヒアリングに来たことは喜ばれた





# 事例④ ウイルスの類似性はどこまで？

バイオサイエンス系の先生から、3の2項に該当するウイルスのモデルウイルスを使用すると連絡が来た

- 貨物等省令第2条の2 1項 第六号の遺伝要素に該当する？

遺伝子を改変した生物（意図的な分子操作によって核酸の塩基配列を生成し、又は改変されたものを含む。）であって次のいずれかを有するもの又は遺伝要素（染色体、ゲノム、プラスミド、トランスポゾン、ベクター及び復元可能な核酸断片を含む不活性化された組織体を含む。）であって次のいずれかの塩基配列を有するもの

- どのくらい似ているのか問い合わせたところ、塩基配列が送られてきて困った

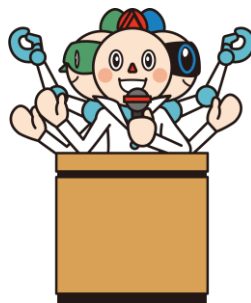
- 結論は非該当

ACGAGTCCGATTGCAGT TGATCGATCTAGC ATTAGCCGT





ご清聴ありがとうございました！





# 『企業型の教員負荷の少ない輸出管理』 3CチェックとVシート包括該非判定

© Osaka Metropolitan University All Rights Reserved.

## 総合知から見出す明日へのヒント

大阪公立大学  
OMU:Osaka Metropolitan University  
輸出管理AD:石尾 則明



# OMU紹介（キャンパス & 教職員数）

配布資料



大阪公立大学  
Osaka Metropolitan University

学部学生入学定員数  
国公立大学

3位

学生数

16,000人

5キャンパス  
+  
2サテライト



大阪公立大学 大学院  
創薬科学研究科

2026年4月 開設



森之宮キャンパス

大阪公立大学HPより <https://www.omu.ac.jp/>

区分		2025年度
教員	教授	579
	准教授	472
	講師	246
	助教	62
	外国人教員（内数）	48
	小計	1,359
職員		426
合計		1,785

※職員数に工業高等専門学校、医学部・附属病院事務局および医学部附属病院の職員は含んでおりません。

女性：290  
男性：1,069



# 大学院・研究所・センター

配布資料

## 15の研究科（+法科大学院）

大阪公立大学HPより <https://www.omu.ac.jp/>

“技術”該非判定対象外

“技術”該非判定の対象領域

人文・社会
文学研究科
法学研究科
経営学研究科
経済学研究科

自然科学系
工学研究科
情報学研究科
理学研究科
農学研究科
生活科学研究科
獣医学研究科
医学研究科
リハビリ学研究科*
看護学研究科
（創薬科学研究科）**

17の研究組織群	
協創研究センター	複合先端研究センター
都市科学・防災研究センター	人工光合成研究センター
数研究所	附属植物園数
南部陽一郎物理学研究所	放射線研究センター
生物資源開発センター	BNCT研究センター
植物工場研究センター	人権問題研究センター
都市健康・スポーツ研究センター	健康科学イノベーションセンター
全固体電池研究所	Well-being共創研究センター
研究基盤共用センター	

人文・社会系	自然科学系 融合
現代システム科学研究科	
都市経営研究科	

\* リハビリテーション学研究科

\*\* 2026年4月開設



# OMU留学生数

大阪公立大学HPより <https://www.omu.ac.jp/>

受入留学生数の推移



外国人留学生数

	国費	私費	合計
学部	0	55	55
研究科	25	341	366

2025年5月1日現在

	2022年度	2023年度	2024年度
受入留学生数	588	609	578

※交換留学、短期受入等を含む。



# 事前確認の簡素化（3Cチェック）

技術の提供・貨物の輸出の事前確認シート

情報

判断

4. 相手先に関する懸念情報

5. 技術の提供の場合に外法上の例外規定（公知・基礎科学）の適用判定

6. 自己判定

【記入例①】共同研究を行う場合

3Cチェック【技術の提供・貨物の輸出・出張用】  
（外国人の受入れは別シートです。） Ver.3

3Cチェック【技術の提供・貨物の輸出・出張用】  
（外国人の受入れは別シートです。） Ver.3

7. 技術の提供・貨物の輸出の事前確認シート

3Cチェック

Country

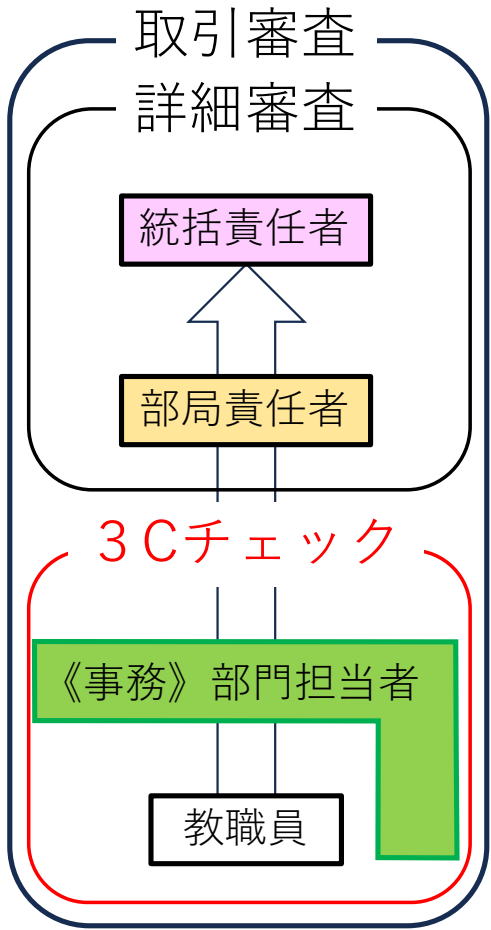
Customer

Classification

次は区分

経産省の輸出管理ガイダンス（大学・研究機関用）より





該非リスト      顧客リスト      仕向地リスト  
**Classification**      **Customer**      **Country**  
ポータルで学内共有

➡ 懸念度：大  
自主管理      法令管理

懸念区分	A	B	C	D
該非	対象外	非該当	不明	該当
顧客	安全顧客	一般顧客	注意顧客	特定顧客
仕向地	安全	一般国	注意国	特定国
取引 判断者	全て A 又は B		1つでも C	1つでも D
	部門担当者(確認)		部局責任者 (一次審査)	統括責任者 (二次審査)
	部局責任者(一次審査)		統括責任者(二次審査)	



# 仕向地区分 & リスト

配布資料

仕向地	区分	内容
安全国	A	別表 3 * 27ヶ国
一般国	B	A,C,D以外
注意国	C	ロシア他
特定国	D	別表 4, 別表 3 の 2

\*グループA (旧ホワイト国)

A,Dは経産省の区分と同じ  
CはOMU独自区分

## 3Cチェック

## 詳細審査

国名	地域	仕向地区分	輸出令別表	EAR	その他	国コード
アイスランド	欧州	B (一般)	—	—	—	IS
アイルランド	欧州	A (安全)	別表 3	—	—	IE
アゼルバイジャン	東欧	B (一般)	—	D1	—	AZ
アフガニスタン	アジア	D (特定国)	別表3の2	—	—	AF
米国	北米	A (安全)	別表 3	—	—	US
アラブ首長国連邦	中東	B (一般)	別表2の4	—	外国UL	AE
アルジェリア	アフリカ	B (一般)	—	—	—	DZ
アルゼンチン	南米	A (安全)	別表 3	—	—	AR
アルバニア	東欧	B (一般)	—	—	—	AL
アルメニア	東欧	B (一般)	別表2の4	D1	—	AM
アンゴラ	アフリカ	B (一般)	—	—	—	AO
アンティグア・バーブーダ	カリブ海	B (一般)	—	—	—	AG
アンドラ	欧州	B (一般)	—	—	—	AD
イエメン	中東	B (一般)	—	D1	外国UL	YE
イスラエル	中東	B (一般)	—	—	外国UL	IL
イタリア	欧州	A (安全)	別表 3	—	—	IT
イラク	中東	D (特定国)	別表 4、別表3の2	D1	EAR746r注意	IQ
イラン	中東	D (特定国)	別表 4	E1	外国UL	IR
インド	南アジア	B (一般)	別表2の4	—	—	IN
ロシア	欧州	C (注意国)	—	D1	外国UL	RU

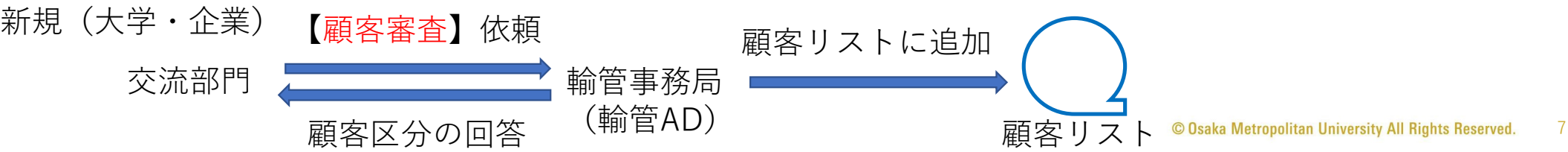


# 顧客区分 & リスト

顧客番号： Kyy-###

外国UL 25-10/9施行（9/29公布） 見直し済み

顧客番号	顧客名・大学（全角）		英語名（半角）		顧客区分	最新見直し日	懸念理由	国
K24-098					B(一般)	2024/8/21	無し	中国
K24-099					B(一般)	2024/8/21	無し	中国
K24-109					B(一般)	2024/8/29	無し	中国
K24-209					D1・C5	2025/10/9	外国ユ:N,M,CW、EL	中国
K23-009					B(一般)	2023/4/19	無し	インド
K23-090					B(一般)	2023/7/27	無し	中国
K23-091					B(一般)	2023/7/28	無し	インド
K23-099	顧客	区分	詳細区分	内容	B(一般)	2023/8/16	無し	バングラデシュ
K23-109					B(一般)	2023/8/22	無し	韓国
K23-209					B(一般)	2023/11/29	無し	台湾
K22-09					B(一般)	2025/5/29	無し	米国
K22-109	一般顧客	B		A,C,D以外	C2	2025/3/14	軍(警察等を含む)	ベトナム
K22-209	注意顧客	C	C1	インフォーム	B(一般)	2023/2/16	無し	韓国
			C2～C7	懸念理由毎に分割				
	特定顧客	D	D1	外国UL (N,B,C,M,CW)				
			D2	核兵器等・武器等の開発等				
			D3	Know通達				



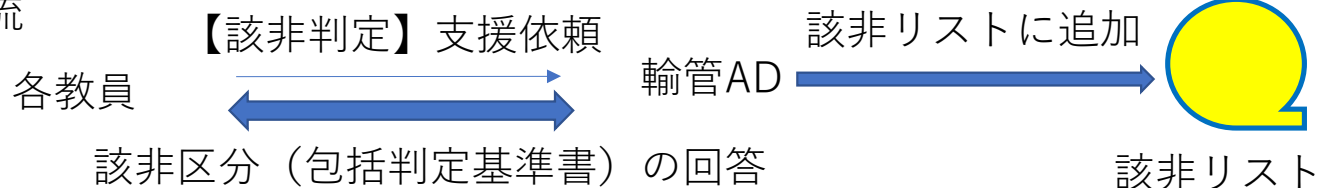


# 該非区分 & 該非リスト

教員名・ID等	表題(研究テーマ)	該非エビデンス	該非区分	研究科	改正見直し日										
各教員に3桁の個人番号を付与 GE###aOyy-A a：番（複数研究テーマ） A：副番（改訂）		GE009d理25	A（対象外）	理学	2025/9/19										
		GE009e理25	A（対象外）	理学	2025/9/19										
		GE010a工22	B（非該当）	工学	2025/5/28										
		GE011a理22	A（NC-2）	理学	2025/5/28										
		GE012a研23	A（NC-2）	数学研究所	2025/5/28										
		GE021b獣24	B（非該当）	獣医学	2025/5/28										
		GE021c獣24	D（該当）	獣医学	2025/5/28										
		GE022a工22	B（非該当）	工学	2025/5/28										
		GE022b工22	B（非該当）	工学	2025/5/28										
		GE024a研22	A（NC-2）	南部陽一郎物理学研究所	2025/5/28										
<table><tr><th>区分</th><th>該非</th></tr><tr><td>A</td><td>対象外 NC-2</td></tr><tr><td>B</td><td>非該当</td></tr><tr><td>C</td><td>(不明)</td></tr><tr><td>D</td><td>該当</td></tr></table>	区分	該非	A	対象外 NC-2	B	非該当	C	(不明)	D	該当		GE025a獣22	B（非該当）	獣医学	2025/5/28
	区分	該非													
	A	対象外 NC-2													
	B	非該当													
	C	(不明)													
	D	該当													
		GE026a工22	B（非該当）	工学	2025/5/28										
		GE027a情22	B（非該当）	情報学	2025/6/2										
	GE339a工23	B（非該当）	工学	2025/5/28											
	GE339b工23	D（該当）	工学	2025/5/28											
	GE348a工25	B（非該当）	工学	2025/9/24											
	GE350a工25	B（非該当）	工学	2025/5/28											
	GE355a工24	B（非該当）	工学	2025/5/28											
	GE356aOyy	C（不明）	○学	’—											

A(NC-2)は基礎科学分野の特例

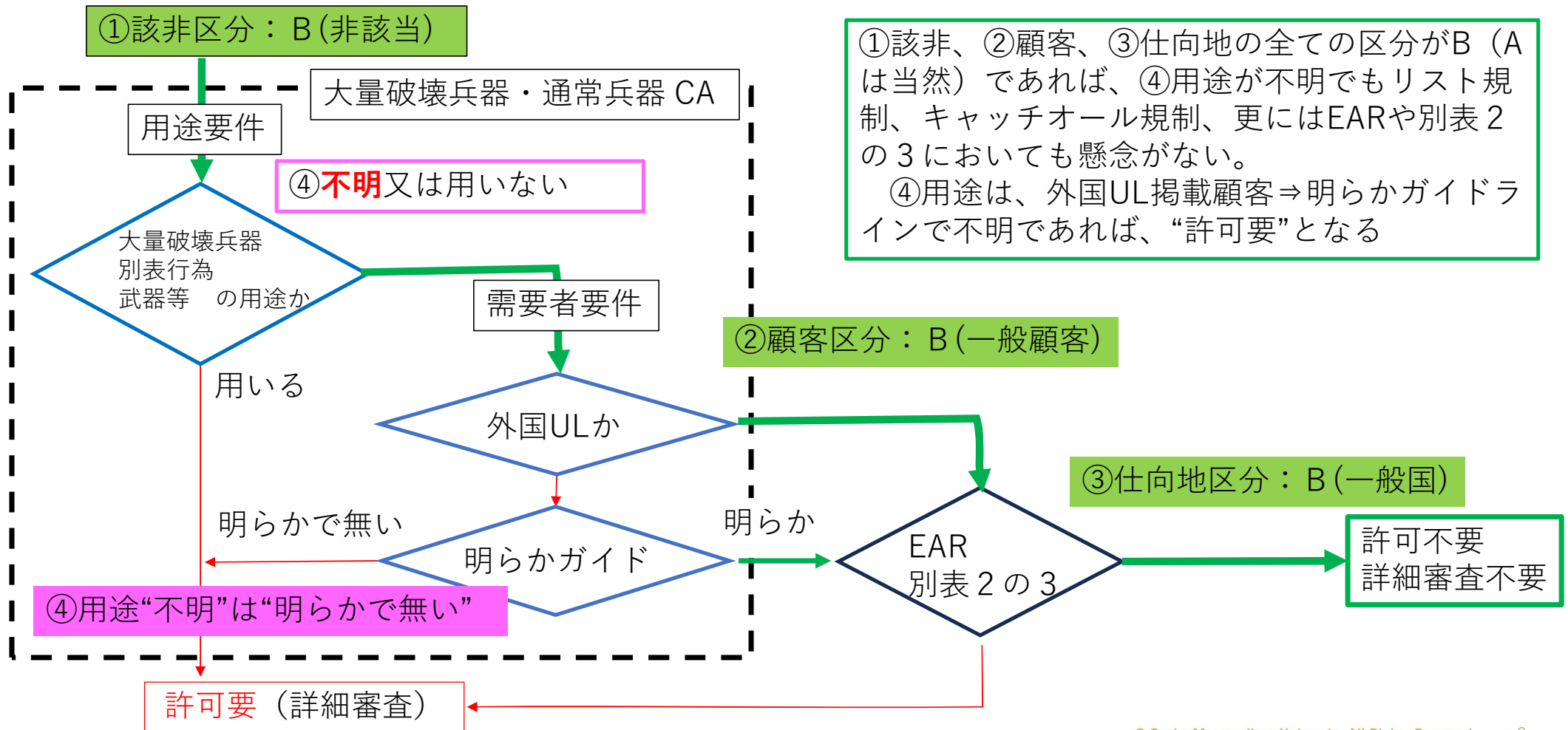
新規交流



研究テーマを**包括判定**



# 全て区分A又はBは、交流の懸念なし



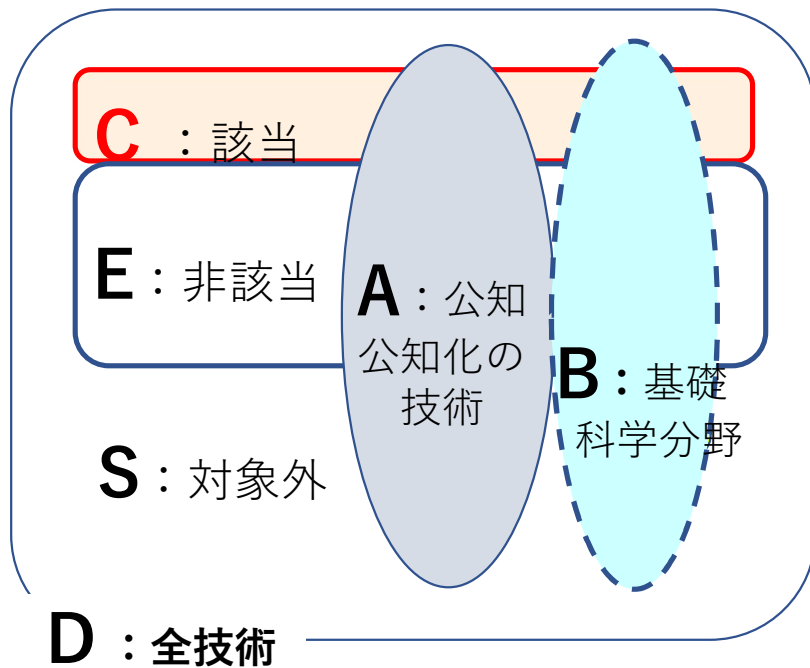


- ①該非の区分  
対象外の範囲を明確に定義
- ②包括判定 & 判定の単位  
提供技術  $\subseteq$  研究テーマ
- ③技術の該非判定  
包括基準書の登録



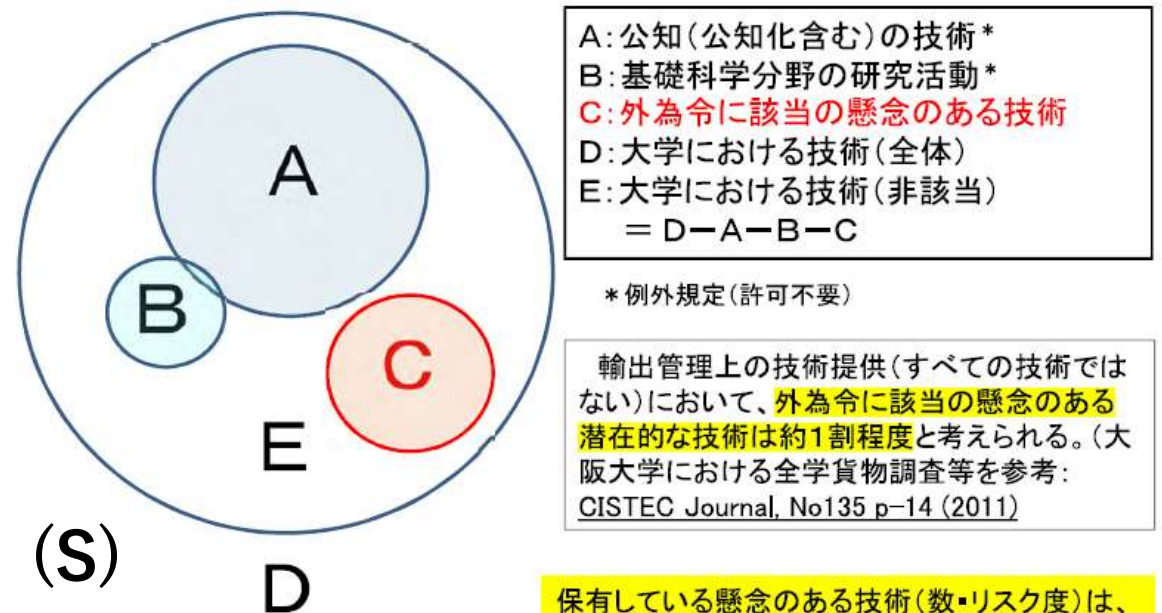
# ①OMUの該非区分

A,Bは許可不要（別層）



## 1. 大学における保有技術

輸出管理の視点(留学生等の受入れ・学会発表等)から  
分類した提供技術の分布模式図





## ②-1 包括該非判定（技術） 2 ステップ

自己判定書：判定根拠

自己判定書(輸出令)		様式: G3	
採番	G2y-###-##		
1. 該非判定者/審査者			
公立大学法人大阪			
判定部門	○学研究科	二次審査	
判定者		審査者	
判定日	202y/mm/dd	審査日	202y/mm/dd
2. 品目			
①品名		外観図(構成図)等	
②型式			
製造者			
原産地			
3. 貨物の仕様(判定に係る性能)			
4. 対象項番と判定(OMU対比表)			
5. 総合判定			

該非判定

項目	個別判定	包括判定
判定資料（根拠）	自己判定書	1 <sup>st</sup> ステップ包括基準書
採番	Gyy-###	GE###xOyy
対象	貨物（品名、型式）	技術（範囲を限定） 貨物（仕様の限定）
二次ステップ		2 <sup>nd</sup> ステップ個別適用 （一部は台帳作成）
備考	毎回審査要	教員に適用を移譲

包括判定とは  
“包括的な該非判定の方法”  
CISTEC 輸出管理品目ガイダンス  
（役務取引）P112 第18版より

包括基準書は他大学の機微度調査又は技術調査票に該非情報を加味した本学独自の様式

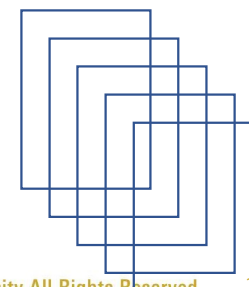
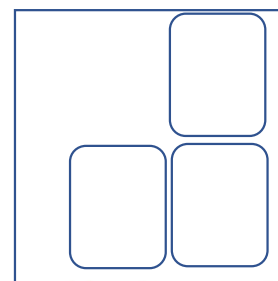
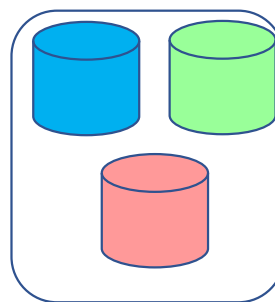
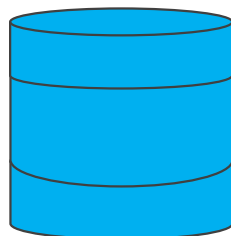
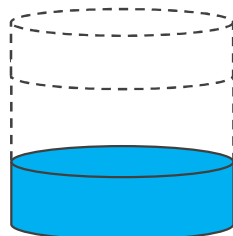


## ②-2該非判定の単位 & 濃淡管理

技術単位	P:資料	Q:交流毎の提供	R:研究テーマ	S:教員	U1:研究室単位	U2:部門単位
事例	メール等の添付資料	3 Cの提供技術	研究内容	複数のテーマを一括	医学部の各臨床研究室	専攻や○学研究科等
様式	自己判定書	包括基準書（提供資料が基準書の範囲内であるか否かを各教員が確認）				
条件	‘－’	‘－’	‘－’	関連貨物：対象項番無し		
採番者	各教員				研究室代表	部門代表
備考	判定が膨大	3 Cと判定エビデンスが1対1で対応	基本判定エビデンス1対複数の3 Cに対応	現状できる限り一括判定し、その後は、テーマ毎に追加	関連貨物が研究室内で一致している場合	数学科、数学研究所 リハビリ学研究科、看護学研究科

注1)  $Q \subseteq R$ の単位で判定すると交流毎の判定が不要になる

注2) 一定の条件で、S又はUの単位の判定も可能





## ③技術の該非判定 4 ステップ & Vシート様式

ステップ1 判定対象技術の抽出（技術又はプログラム）

ステップ2 関連貨物とその該非

step1 関連貨物の特定

step2 対象項番の選定（検索項番）

step3 該非決定（OMU貨物対比表）

ステップ3 技術対象項番の選定

ステップ4 OMU技術対比表の判定：省令との合致  
判定上の注意する用語

本ステップはCISTEC 輸出管理品目ガイダンスより  
（C06:先端材料、C12:核・原子力等）

### Vシート様式

I 該非調査票

II 検索項番

III（貨物）OMU対比表

IV（技術）OMU対比表

V GE包括基準書  
（IからIVのまとめ）







## OMU対比表

本学の以下のHPからご覧いただけます。

<https://www.omu.ac.jp/research/promotion/support/export-control/>

(2025年5月28日施行)新貨物・技術マトリクスを加工したOMU対比表を公開しました。

 [\(貨物\)OMU対比表 \(1.1MB\)](#)     [\(技術\)OMU対比表 \(475.4KB\)](#)

 [OMU 対比表 16項\(1\) \(197.4KB\)](#)

Excel 1sheet目に判定記入ルールの説明があります。

用語の検索は、OMU対比表（貨物マトリクスと同等）を利用し、  
経産省の合体マトリクス表は、貨物と技術の該非の最終確認に利用しています。



# 詳細該非リスト化（情報の蓄積・政省令改正）

## 初回判定日、該当・対象項番、関連貨物の項番、検索品目の管理

		該非エビデンス	副番	初回判定日	該当項番	対象項番	関連貨物 (対象項番)	検索品目	検索品目	検索品目
		GE999a工23	B	2024/3/7	外8項(1)	外8項(1)	4項(26),8項	脳型コンピュータ	不揮発性メモリ	強誘電体
教員名・ID等	表題(研究テーマ)	該非エビデンス	該非区分	研究科	改正見直し日	21類	酵母菌			
事例		GE999a工23	D (該当)	工学	2025/5/28	21類	酵母菌	プラスミドDNA		
		GE009d理25	A (対象外)	理学	2025/9/19		有機強誘電体	フッ化ビニリデン		
		GE009e理25	A (対象外)	理学	2025/9/19		貨物無し			
		GE010a工22	B (非該当)	工学	2025/5/28		貨物無し			
		GE011a理22	A (NC-2)	理学	2025/5/28		ウイルス	大腸菌K株	デルタウイルス	
		GE012a研23	A (NC-2)	数学研究所	2025/5/28		ウイルス	大腸菌K株	豚ヘルペスウイルス-1	
		GE021b獣24	B (非該当)	獣医学	2025/5/28		エタノール	白金	ロジウム	
		GE021c獣24	D (該当)	獣医学	2025/5/28		シート型ラミネートセル	亜鉛負極電池	キサンタンガム	
		GE022a工22	B (非該当)	工学	2025/5/28		素粒子			
		GE022b工22	B (非該当)	工学	2025/5/28		寄生虫・原虫			
		GE024a研22	A (NC-2)	南部陽一郎物理学研究所	2025/5/28		レジスト	電子線レジスト		
		GE025a獣22	B (非該当)	獣医学	2025/5/28		認識処理システム			
		GE026a工22	B (非該当)	工学	2025/5/28		半導体ナノ粒子	太陽電池	光触媒	
		GE027a情22	B (非該当)	情報学	2025/6/2	頁(4)	ストリークカメラ	電子カメラ		
		GE339a工23	B (非該当)	工学	2025/5/28					
		GE339b工23	D (該当)	工学	2025/5/28		非線形ダイナミクス	結合発振器（振動子）		
		GE348a工25	B (非該当)	工学	2025/9/24	頁(4)	3次元計測装置			
		GE350a工25	B (非該当)	工学	2025/5/28					
		GE355a工24	B (非該当)	工学	2025/5/28					



# まとめ 『企業型の教員負荷の少ない管理』

① 3Cチェックによる取引判断の簡素化  
全て区分A又はB：部局担当者《事務》の確認

② 該非判定のプロセスを残すことが大事！  
Vシート様式、該非リスト

7年以内、だれもが  
第3者に説明できるエビデンス！

ご清聴ありがとうございました

<未発表>

詳細審査（CA,L,EARで様式分け）

用途確認：“民生用途エビデンス”の取得

判断者：一次審査(区分C)：部局責任者

二次審査(区分D)：統括責任者

外為法等遵守事項 輸出者等概要・**自己管理チェックリスト(CL)**

2-2(2)	該非判定書等 ①該非判定書等の審査様式はあるか。 ② <b>該非リスト</b> (組織内で作成した該非判定結果の一覧表等)はあるか。 ③関係法令改正時、新製品増加時 に <b>該非リスト</b> は見直しているか。
2-3(5)	確認基準 ①需要者等の確認基準は適正かつ明確に定められているか。 ②独自に <b>禁止顧客リスト及び要注意顧客リスト等</b> を作成しているか。 ③当該リストは定期的に見直しているか。



# 大学内部（事務担当者）から みた輸出管理業務について

-長崎大学の事例紹介-

長崎大学研究開推進機構

上席URA 松永英美



# 0.長崎大学と自己紹介

## 長崎大学のご紹介

<b>長崎大学の起源・特徴</b> <b>日本で最初の西洋医学教育機関</b> ※安政4年（1857年）、オランダ海軍の軍医 ヨハネス・ボンペ・ファン・メーデルフォールト（通称ボンペ）が、長崎奉行所で、オランダ語による医学講義を開始幕府医官の松本良順らに行った「医学伝習所」が創基。 特徴：附置研究所「熱帯医学研究所」「原爆後障害医療研究所」「高度感染症研究センター」や「核兵器廃絶センター」を有する。	
<b>研究</b> <b>科学研究費助成事業</b> 採択数 669件/11.6億円 <b>共同研究・受託研究</b> 契約数 836件/52.8億円	<b>学部・大学院</b> <b>10学部</b> (多文化・教育・経済・医学・歯学・薬学・情報データ科学・工学・環境科学・水産学) <b>1学環</b> (プラネタリーヘルス学環) <b>7研究科</b> (多文化社会学、教育、経済、工学、水産・環境科学総合、医歯薬学総合、熱帯医学・グローバルヘルス) ※工学、水産・環境科学総合研究科は2024年度以降総合生産科学研究科へ統合
<b>教職員数</b> <b>3,432名</b> 理事5人、教育職員1,273人、 その他の職員2,154人	
<b>学生数</b> <b>9,307人</b> 学部生7,519人、修士課程964人、 博士課程783人、専門職学位課程41人	<b>教育研究プロジェクト拠点</b> ベトナム拠点（ハノイ・ニャチャン） ブラジル拠点（レシフェ市） ケニア拠点（ナイロビ）
<b>国際交流</b> <b>協定</b> <b>54ヵ国 257機関</b> <b>外国人留学生</b> <b>57ヵ国 605人</b> ※うち国費留学生63人 2025.5.1現在	<b>輸出管理関連2024年度実績</b> <b>事前確認シート 2088件</b> (内訳) 貨物の輸出149件技術提供595件 <b>審査票 13件</b> <b>経済産業省への個別許可申請 0件</b>

## 自己紹介



# 松永 英美

☎ 095-800-4113 ✉ emi123@nagasaki-u.ac.jp

**所属**

国立大学法人 長崎大学  
研究開発推進機構

**職歴**

長崎大学/佐世保高専  
国家公務員採用Ⅱ種試験行政事務職 採用  
事務職員として会計系・病院物流管理・コスト分析等病院の経営管理業務を経て、7年ほど研究支援系事務組織の勤務経験あり。

**担当業務**

研究インテグリティ部門で、安全保障輸出管理業務をメインに、利益相反・ABS・研究インテグリティ等の業務に従事している。

**出身**

長崎県佐世保市

**学生時代の専攻**

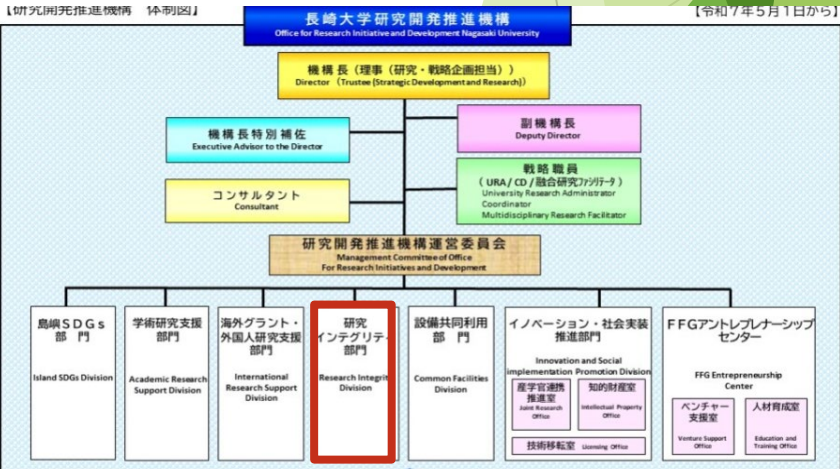
国文学（近代文学）

**言語**

日本語

**URAに関係ありそうな資格**

- ・認定URA
- ・二級知的財産管理技能士
- ・STC ADVANCED
- ・ビジネス著作権検定上級
- ・ビジネス実務法務検定3級





# CONTENTS

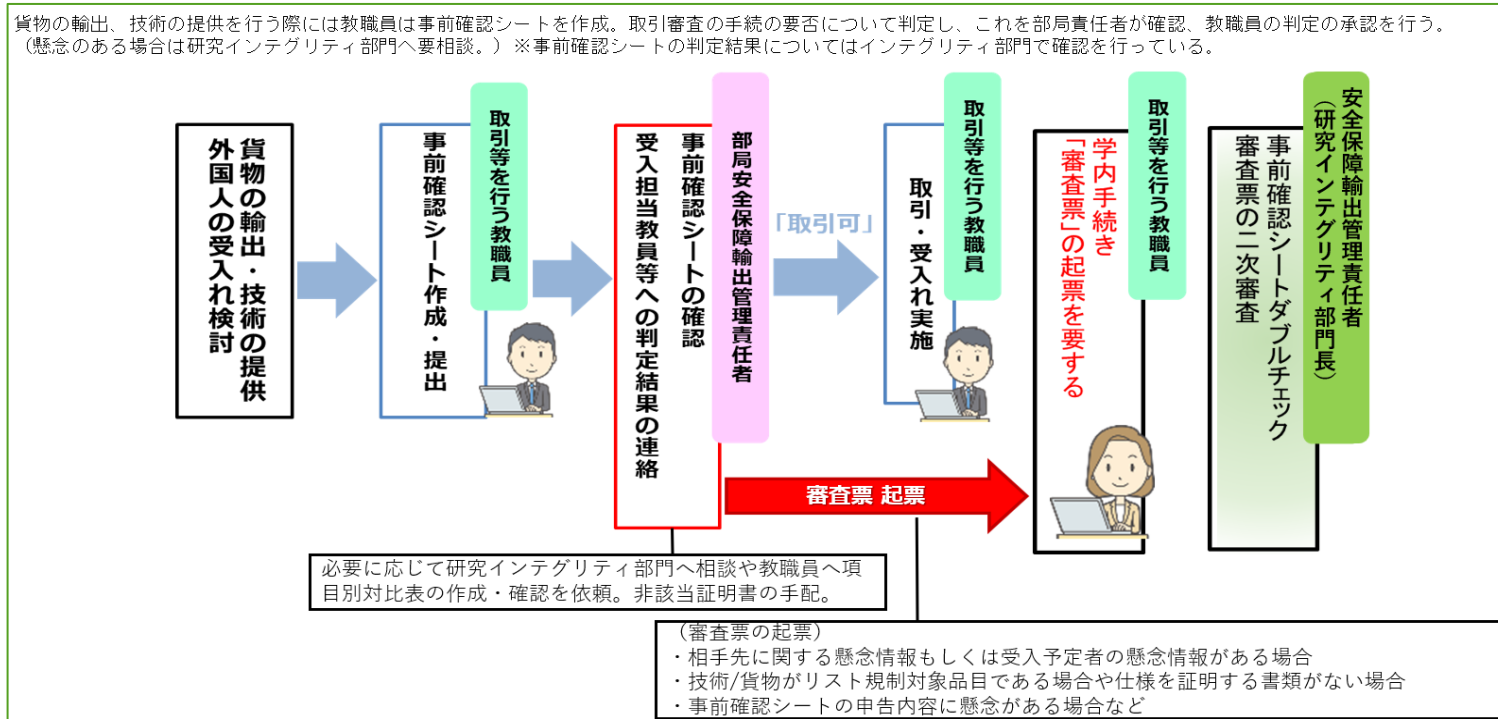
- ▶ 1.長崎大学の輸出管理の運用について
- ▶ 2.事務担当からみた輸出管理
- ▶ 3. アンケートから分かったこと
- ▶ 4.今後取り組みたいこと



# 1. 輸出管理の運用について～運用フロー～

## ■ 部局分散型

教職員が作成した事前確認シート等を所属部局担当が確認し、必要（懸念）がある場合のみ本部研究インテグリティ部門へ書類が提出される



部局の担当さんは適切な輸出管理可能なのかな？  
輸出管理への理解は十分なの？

**メリット**：業務分散により本部側の工数削減ができる

教員に近い部局事務が対応する為管理漏れが生じにくい。知識をもつ職員が増える

**デメリット**：人事異動により部局事務担当の入れ替わりがあり知識が定着しづらい

本部側では部局事務の業務のコントロール・把握がしづらい





# 1. 輸出管理の運用について

## ～日常の周知活動～

定期的に取り組んでいること

- ▶ 年に2回（4月10月）通知文書で注意喚起
- ▶ 応募の制限についての通知（4月）
- ▶ 年に1度は全教職員対象の説明会を実施

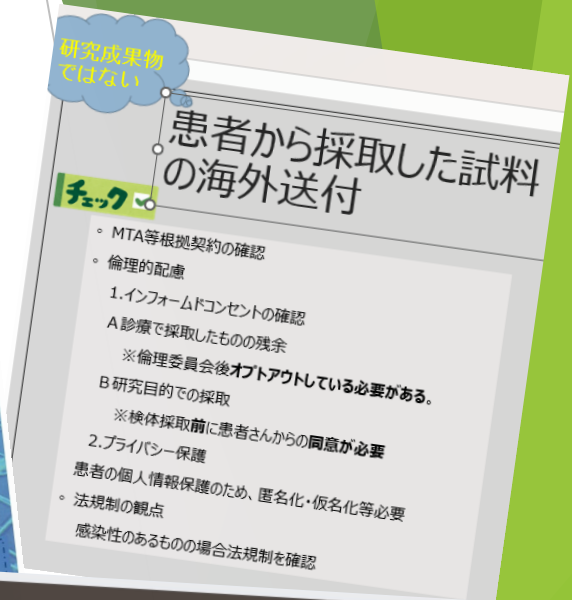
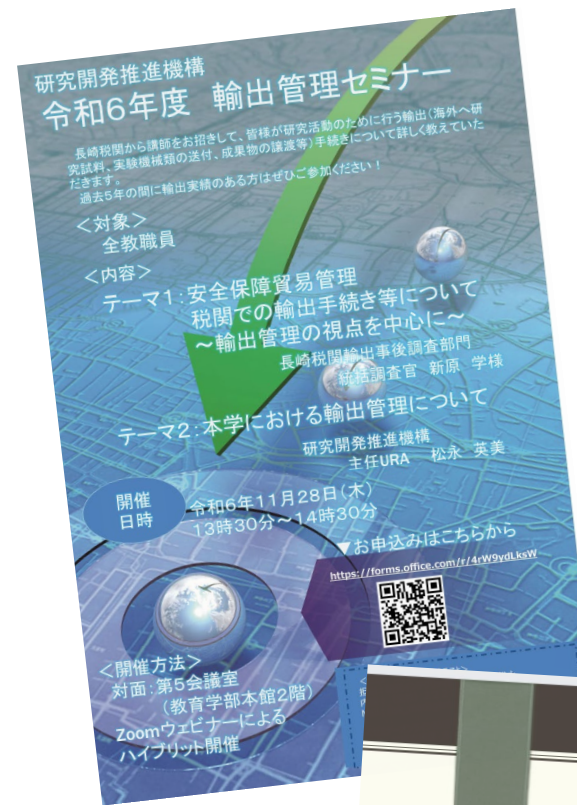
不定期で実施していること

- ▶ 理系の部局訪問と意見交換
- ▶ トラブルがあった事例について情報提供
- ▶ 輸出手続周辺の注意事項等（念のため）の案内

## 本部側の感想



- ・部局事務へは毎月、同じような説明をしている気がする...
- ・部局事務担当が先月と違うような気が...異動か？
- ・なかなか輸出管理の知識が浸透しない。



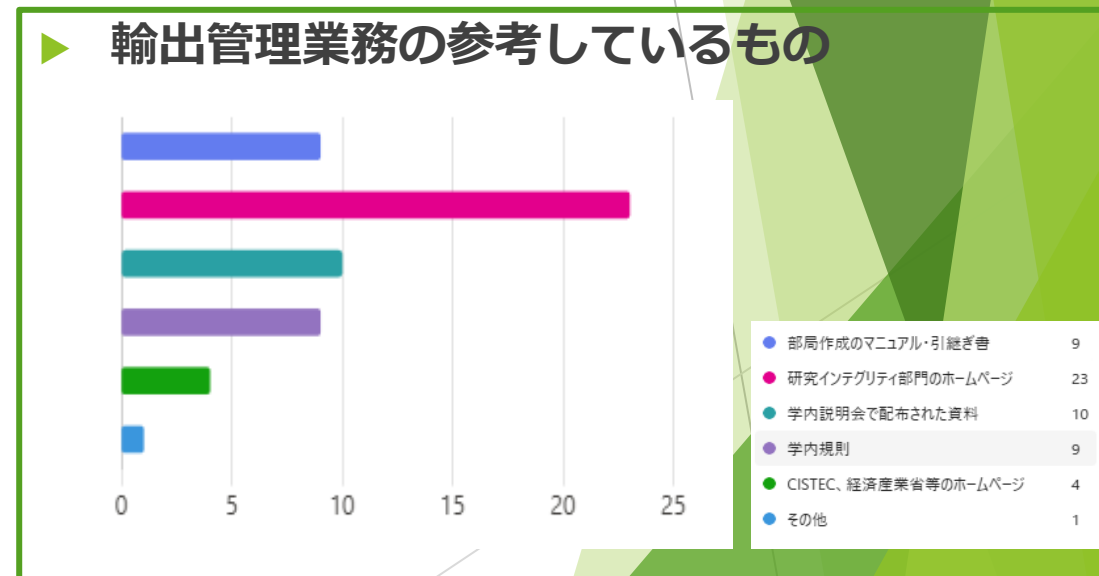
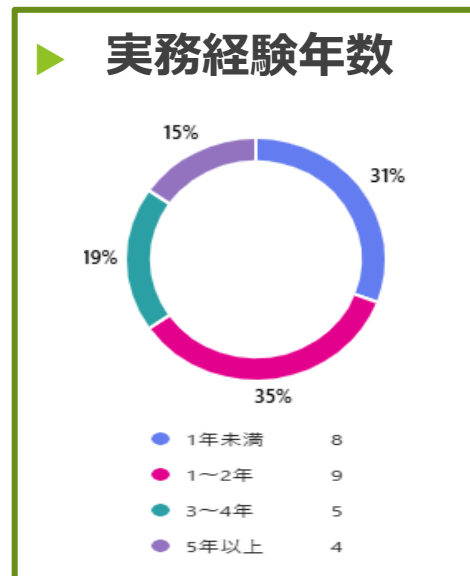
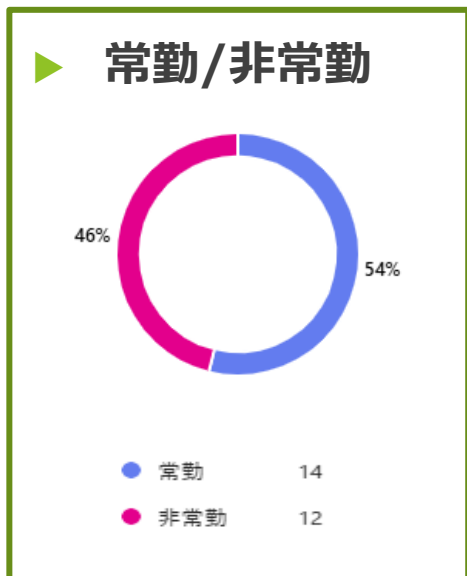


## 2. 部局担当からみた輸出管理 ～部局の気持ち～

### ▶ 調査前の予想（イメージ）

- ・ 常勤の事務職員が担当しており、2．3年ごとに人事異動で担当が入れ替わり輸出管理の知識が定着しないのではないか。
- ・ 異動時の後任への引継ぎが十分ではなく継続性がないのでは？

### ▶ 実際は...（調査結果）



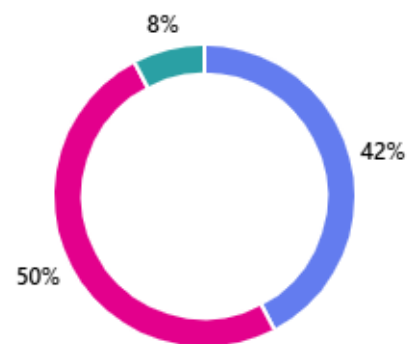
★ 人事異動がない、非常勤職員が比較的長期間担当しているケースが多い！

★ 学内向けのホームページを業務の参考として一番活用している。



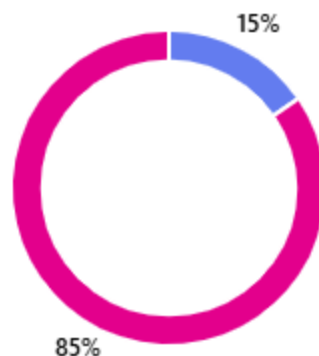
## 2.部局担当からみた輸出管理 ～部局の学習意欲～

### ▶ 部局担当者向けの説明会を設定したら



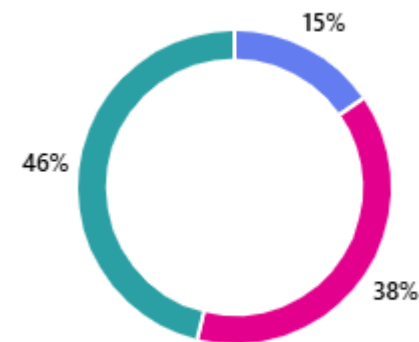
ぜひ参加したい	11
都合があれば参加したい	13
今のところ必要ではない	2

### ▶ CISTECの輸出管理セミナーを受講



ある	4
ない	22

### ▶ 輸出管理に関する資格試験への興味



興味がある	4
どちらともいえない	10
興味はない	12

現場の正直な気持ちとしては・・・

- ★学内の研修（部局の特性に合わせた内容）への参加意欲は（比較的）高い
- ★CISTEC（外部）の専門的な内容のセミナーは敷居が高い
- ★異動の有無にかかわらず資格を取るほど深い興味はない



### 3. アンケートから分かったこと

- ▶ 人事異動がある常勤職員とほぼ同数の異動がない非常勤職員が業務に従事している = **知識の蓄積が可能**
- ▶ **学内向けホームページの情報を充実させることは知識の定着に有効**
- ▶ 部局の性質に合わせてカスタマイズした資料を持ってコンタクトし興味を持ってもらう

**地道な周知活動がとても大事**



## 4. 今後取り組みたいこと～システム化～

### ▶ システム化の目的・期待される効果

- ・ 業務の属人化から脱却
- ・ 担当者間の情報共有の円滑化
- ・ 管理漏れの防止
- ・ 教職員の理解促進・負担軽減

### ▶ 具体には・・・

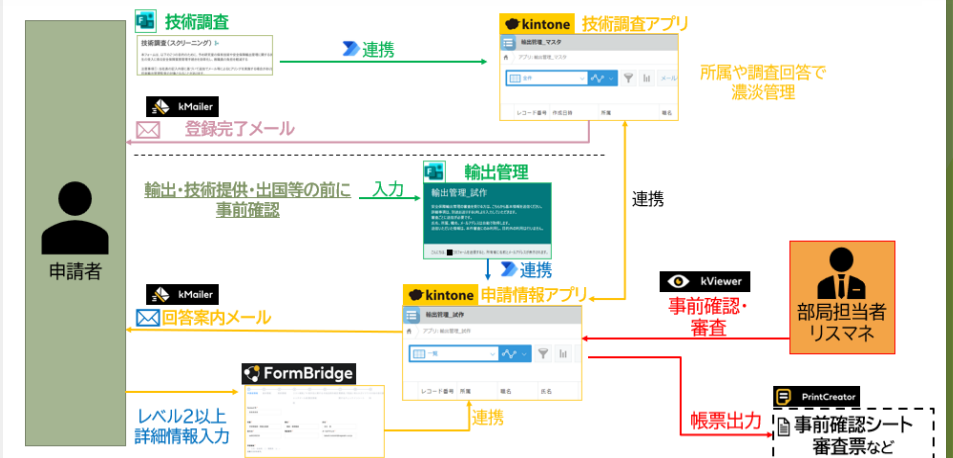
現在学内の情報企画課と共同開発中  
Kintoneを活用して仕組みを構築中

学内の他のシステムと連携し、職員IDをキーとして、必要に応じた「兼業」「寄付」「利益相反」「海外出張」複数部門で管理されている情報の収集を容易にするよう企画。

#### 利用するアプリ・システム ※開発中

- **Microsoft Forms**: 基本データ(研究分野等スクリーニング)の入力
  - ・ 技術調査
  - ・ 輸出管理
- **PowerAutomate**: Microsoft Formsとkintoneの間での情報連携
- **kintone**: 入力されたデータの管理
  - ・ **マスタ**: 個人情報、スクリーニング情報の管理
  - ・ **輸出管理**: 申請情報の管理
- **FormBridge**: 申請に係る詳細情報の入力
  - ・ 事前確認シート・審査票起票 ※上記「輸出管理申請:回答用」から回答後届くメールのリンクからアクセス
- **kViewer**: 申請情報を各部署でリスト管理するページ
- **kMailer**: 受付メールおよび申請方法案内メールの送信
- **PrintCreator**: 帳票生成(PDF)

#### システム連携図 ※開発中





ご清聴ありがとうございました。